

古民家の野外博物館

日本民家園だより

平成元年度第2号

〈通号第17号〉

発行 1. 8. 1

川崎市立日本民家園

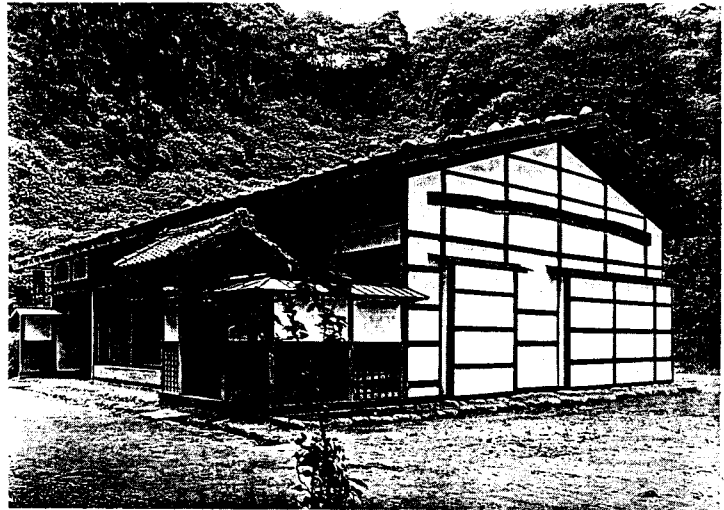
川崎市多摩区枡形7-1-1

電話(044)922-2180-1

印刷(資)永申社

つちや 薬種問屋「槌屋」、旧三澤家住宅

- 旧三澤家住宅
- 神奈川県指定重要文化財
- 切妻造り、板葺き石置き屋根
門、塀付属
- 平面積 171.12㎡
- 延面積 183.51㎡
- 旧所在地 長野県伊那市西町
5584
- 昭和43年12月 三澤良信氏よ
り川崎市に寄贈
- 昭和44年8月 解体工事着手
- 昭和46年3月 移築復原完了
- 昭和47年11月 県重要文化財
に指定される



旧三澤家住宅

◆脇往還の上層町屋

三澤家は元禄年間の初代庄助に始まりますが、この建物は古文書により天保年間の三州街道伊那部宿の大火後に建てられたものと推定されます。幕末ともなり、町人とはいえ薬種問屋などで経済力もあり、組頭役から年寄筋に昇格したころの建築ですので、下の部分は^{カンナ}台鉋がかかった上等な仕上げをし、門・塀のついた式台があり、漆喰壁に貫の配置が美しい風格あるものとなっています。それにもかかわらず、屋根は手割りの板葺きに石を置いただけという素朴な姿で、一般の街道にはない脇往還の町屋らしさを感じさせます(現在の門・塀は大正時代に建て替えられたものです)。

その後、明治初頭には宿屋をするために二階建となり、さらにその後一部三階建となるなど

大改造をうけていましたが、移築にあたって調査し、建築当初の姿にもどしたのが、民家園での姿です。しかし、間取りは当初とあまり変わっておらず、横巾は街道に沿って一杯にとっており、ざしきの床の間の奥行きが少ないのはこのためです。横は隣家に接するような状態ですが、奥行きは長く、離れ座敷や渡り廊下でつながった多くの倉がありましたが、主屋のみの移築であったのは残念なことです。

◆みどころ

- 故濱田庄司氏も絶賛された、書院付のかみざしきとざしき境の欄間のデザイン。
- 薬種問屋時代をしのぼせる民具。
- 上等な下の部分とは対照的な石置き板葺き屋根の素朴さ。などなど

着任にあたっての 博物館行政について

川崎市立日本民家園 第8代
参事・園長 大石 照蔵

当園に着任して、早3ヶ月が過ぎようとしています。教育行政に携わること30年になりますが、社会教育に係わることは初めての経験です。

博物館行政とは、いったいどう考えればよいか、書物をひも解いてみても、或は博物館法等関係法令をみましても、どうも理解ができず、最近になって私なりに、こうではないかと考え始めた次第です。仏教には輪廻の思想があります。生あるすべてのものは、芽が出て、花を咲かせ、やがて実を結び種子となる。この過程を繰返すことであると謂われています。人間も同じように生死を繰返しながら新しいものを生み出していく、その過程に於いて、先人が多くの文化を作り、保存してきたものであります。



これ等の多くの文化財が保存されて始めて、先人のそのときどきの生活や文化を伺い知ることができるのであります。これ等の多くの文化財を、公共団体の立場から調査研究し、或は保存等を行うことが博物館行政の使命であり、その環境作りが私に課せられた命題ではないかと考えるようになりました。当時の文化を知ること、大事なことであり、近年特に我々の子孫にかけがいのない地球と美しい緑や空を残そうではないかという叫びを耳にします。これから21世紀を担う若者に、この先人が残してくれた貴重な文化財を通じて、美しい大地と自然を守って行かねばならないことを、学習して頂ければと思う次第です。取留めのないことを申し上げましたが、博物館行政について、全くの素人でございます。いちから勉強する所存でございます。何卒諸先輩を始め同僚の方々のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます、着任のご挨拶とさせていただきます。

芋名月 豆名月

旧暦八月十五夜を中秋の名月として月見の行事を行うのは中国から朝廷に伝えられたもので、延喜九(909)年八月十五夜に中国にならってのはじめて詩歌管弦を伴う月見の宴がひらかれたと記録に残されています。これに対して日本各地ではさまざまな習俗が名月と結びついており、庶民の間では十五夜は単に月を賞する風流の日だけではなくたことがわかります。

十五夜には、秋草や田畑のはつもの、果実、団子などを供えます。川崎市域では、月見団子(あるいはオハギ)を15個、ススキ、オミナエシ、里芋、豆腐、柿などを縁側や庭に供えました。十五夜の供え物は子供たちが盗んでもとがめられず、盗まれるとよいことがあるともいわれていました。

九月の十三夜にも月見をするのは日本だけの風習で、片月見(十五夜か十三夜の一方だけをする)はしてはいけないとされました。特に関東の各県では、後の月見も同じ場所で必ずしないと不幸がくるといい、やむをえずに不在になる場合は、陰膳をすえるというところもありました。

関東以西では十五夜を芋名月、十三夜を豆名月(または栗名月)と呼ぶのに対して、東北地方では逆に十五夜を豆名月、十三夜を芋名月と呼んでいます。この夜に限って誰の畑の芋を取ってもよいとしたり、この日を芋の子誕生・里芋の年取りなどといって芋の掘りはじめの日とする地方もあります。また、その年の新しい稲穂を供えるところもあり、初穂祭との関係も指摘されています。

南九州では、名月の夜に綱引の行事があり、そのために綱引のことを十五夜と呼んでいます。これは収穫を前に豊作かどうかを占う行事として行われるものです。

今回は、8月から10月までに行なわれる催し物の中から、今年度はじめて企画された“いろりべの集い”を特に採り上げてご紹介してみたいと思います。皆様のご参加をお待ちしています。

この“いろりべの集い”は、その名の通り古民家のいろりを囲んで行ないます。通常、当園では見学者の方々に床上へあがって頂くことができません。しかし、この“いろりべの集い”では、実際にいろりを囲んで座わり、

いろりで沸かしたお湯で入れたお茶を飲みながら、参加者の皆様に昔の生活に触れ、語り合っ頂こうと考えております。

これまでの“民家に学ぼう会”のような講義形式ではなく、もっと楽しく、もっと自然な感覚で古民家について、昔の生活一般について学習します。また最終回には、今年度当園へ移築復原予定の旧岩澤家住宅がもと在った場所を訪ねてみよう、という現地見学会も予定しています。



穏やかな秋の日、いろりべで語り、古民家のふる里をそぞろ歩く。

あなたも一緒にしませんか。

— 新企画 —

いろりべの集い



◆ 日 程 etc.

日程 10月7日, 14日
21日, 28日
(各土曜日)

時間 午後1時30分
～3時30分

会場 旧山田家住宅

定員 20名

申し込み 9月24日

(日) から

往復ハガキで先着順(ハガキ1枚につき1名のみ)

◆ テーマ・内容

第1回 「くらし」について語る(1)

昔の生活一般をテーマに講師のお話を聴き、語り合います。

第2回 「くらし」について語る(2)

川崎の古民謡を講師から学び、古民謡にまつわる話を聴きます。

第3回 「いえ」について語る 昔の家の造りについて学びます。

第4回 現地見学会 自然の中を歩きながら、昔の生活環境と直接触れ合います。



行事案内

◆ 体験学習—郷土玩具作り—〈8/20〉

○内容 水鉄砲などの竹細工 ○対象 当日入園の方 ○会場 旧作田家住宅前

◆ 体験学習—十五夜ダンゴ作り—〈9/10〉

○定員 25名 ○教材費 300円 ○申し込み 8/20午前9時から電話で先着順

◆ いろりべの集い〈10/7, 14, 21, 28〉詳しい内容は上記の通り

◆ 文化の日無料開放・自由参加行事〈11/3〉年に1回の無料開放日。自由参加行事は、当日入園の方を対象。旧作田家住宅前にてワラ細工を行なう。



年中行事

8月

盆行事

9月

十五夜

10月

刈りあげ

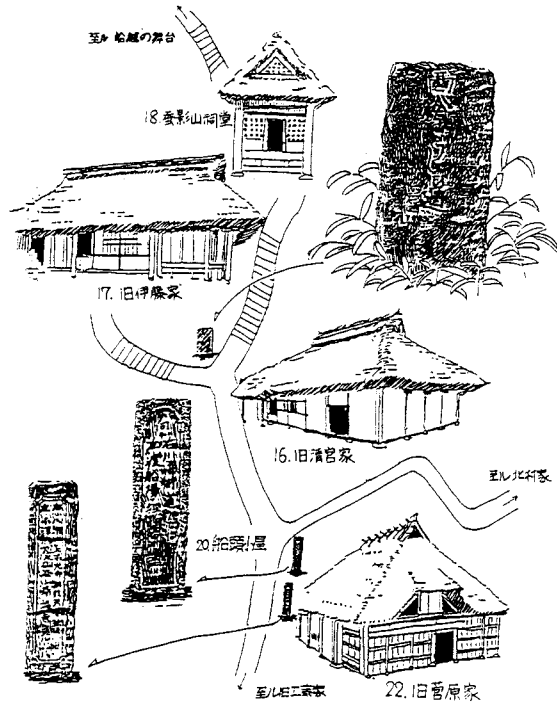
園内の石造物案内(4)

— 道 標 —

道標には、純然たる道標として立てられたものと、他の目的で立てられた石仏、石塔類に道案内の銘文を併記したのがあります。道標を立てる目的が第一に道案内であることは言うまでもありませんが、その一方で、道案内を立てることによって功德を得ようとする信仰心があったことも見逃すことができません。このような道標と宗教の結びつきは、我国において「道」という言葉が単に道路だけの意味ではなく、道徳的な意味あいを持って使われていることに関係しているようです。またそれに加えて、仏教における供養の考えの中に、造塔することによって功德が得られるとする考えがあり、その影響があるとも言われています。

私たちが道標を見る時、一番気になるのは何と言ってもそこに書かれている地名です。それぞれの地名は、その道標が立てられている土地との間に、かつて人の交流があったことを教えてくれます。中には、今日すでに使われなくなった道筋を示しているものもあるでしょう。そんな古い道標にどこかで出会ったら、しばしの間昔の旅人になった気分になれるかもしれません。

民家園内にも右の図のように昔の道標が配してあります。どれも川崎市内の古い道沿にあったものです。傍を通る時はちょっと立ち止まって行き先を確かめてはいかがでしょうか。



編集後記

平成元年度第2号の民家園だよりをお届けいたします。

うとうとしかった梅雨も明け、8月の声をききますと夏もいよいよ本番です。生田緑地には涼しさを求めて多くの人が訪れ、ここ民家園にも夏休みの勉強のためでしょうか、小・中学生の姿が多く見られるようになってきました。

木々の緑と古民家が爽やかさを醸し出す民家園へ是非どうぞ。(K)

園の動き

◆ 『日本民家園まつり』開催〈5/1～31〉

昨年に引き続き、民俗芸能公演をはじめとして、様々な催し物を行ないました。特に芸能公演は天候にも恵まれ、観覧者の方々にもゆっくりと熱演を見ていただきました。

◆ 民家に学ぼう会開催〈6/18, 25〉

古民家についての理解を深めていただくため、基礎的な知識をスライドなどを利用して学んでいただきました。

◆ 民具づくり教室—竹細工—〈7/9, 16, 23〉

3日間に渡り、6種類の竹製品を作っていました。